



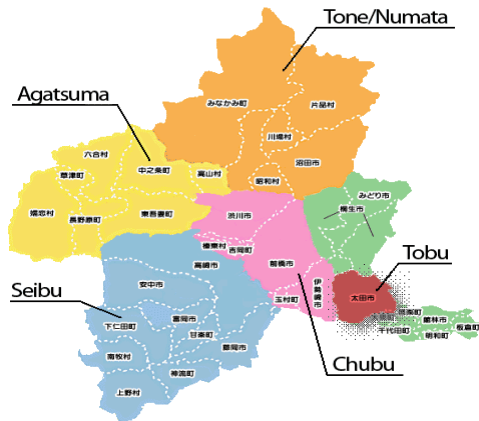
英語教育強化地域拠点校としての取組 —太田市立旭小学校の4年間—



太田市立旭小学校

研修主任 大槻典子

太田市立旭小学校の紹介



平成26年度より英語教育強化地域拠点事業で県の指定を受け、旭中学校とともに4年間の研修を進めてきた。児童数585名、21学級の小学校で、「進んでコミュニケーションを図ろうとする児童の育成」を校内研修の主題として取り組んでいる。

校区が、1小学校1中学校で過去2年間小中連携をおこなっていたこともあり、小学校の外国語活動の授業には、旭中学校の職員（英語特配）が加わって授業を進めている。指導内容としては、本校児童の実態を考慮しながら群馬県総合教育センターの「小学校英語教

育カリキュラム」を使用し、外国語活動の授業を行っている。

27年度については文科省への特例申請が認められたため5・6年に加え、3・4年でも週1回の授業を行うことになった。28年度には、5・6年において教科化が行われ、英語科として実施し、今年度は時数確保のため高学年の短時間学習の試行をスタートし、年間約70時間を充てている。

研究の概要

1 研究主題

進んでコミュニケーションを 図ろうとする児童の育成

～相手意識を育てる場面設定の工夫と 英語教科化における指導の工夫を通して～

2 主題設定の理由

子どもたちを取り巻く現代社会は、国際化、情報化、科学技術の発展、少子高齢化等、急激に変化している。こうした状況をふまえ、平成18年に改訂された教育基本法では、21世紀を切り拓く心豊かでたくましい日本人の育成を目指すという観点から、これからの教育の新しい理念を定めている。そして新学習指導要領においても、変化の激しい社会を担う子どもたちに必要な力として、「生きる力」、特に「コミュニケーションを図ろうとする力」の育成が重要視されている。

本校では「自らとりくみやりぬく子」を学校教育目標として掲げ、日々の教育活動に取り組んできた。さらに外国語活動において、群馬県から「英語教育強化地域拠点事業」の

指定を受けいることもあり、国際社会に生きる日本人として、自ら課題を持ち様々な手段で課題を解決していく能力の育成や、自分の考えや意志を積極的に分かりやすく表現しようとする伝え合う力を養うことをねらいとして取り組んでいる。

しかしながら本校の児童の実態をみると、明るく元気に学校生活を送ったり、思いやりの心を持って親切にしたりすることができる反面、気の合う限られた集団の中だけでコミュニケーションをとる傾向が見られたり、コミュニケーションをとっているつもりが実際は自分の思いを一方的に伝えているにだけに過ぎなかったりする場合が多い。

このような状況を改善するためには広く他者と交流をする機会を増やす工夫が必要であると考える。

さらに、子どもたちの健やかな成長を願い、学校の教育活動を一層充実させていくためには、様々な教育活動における指導を小学校だけで完結するものと捉えるのではなく、中学校生活を見通した連続性のあるものへと変えていくことが必要である。

そこで、本校では相手意識を育て他者とかわり合う交流活動を通してコミュニケーションを図ろうとする児童の育成に焦点を当て中学校へとつなげる研究を進めていくことにした。

到達度目標（Can-Doリスト）と研修で目指す児童像

到達度目標（Can-Doリスト）	目指す児童像																
卒業時の目指す児童像 相手を意識し関わりを大切にしながら、自分の思いや考えを簡単な英語を用いて表現し、伝え合うことができる。 【中学校と共有し、連携を図っています。】																	
群馬県「英語教育強化地域拠点事業」拠点指定 太田市立旭小学校 外国語活動 学習到達目標（案）																	
【事業目的の記載】 児童が英語と関わりをもちながら、自分の思いや考えを簡単な英語を用いて表現し、伝え合うことができる。 （伝え合う場面をもち、自分の気持ちを伝えたりすることができる。）																	
「外国語を表現する力」																	
【第1学年】	<div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;"> <div style="margin-bottom: 10px;">高</div> <div style="margin-bottom: 10px;">↑</div> <div style="margin-bottom: 10px;">中</div> <div style="margin-bottom: 10px;">↑</div> <div>低</div> </div>																
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>話すこと</th> <th>読むこと</th> <th>書くこと</th> <th>聞くこと</th> <th>話すこと</th> <th>読むこと</th> <th>書くこと</th> <th>聞くこと</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> 学習到達目標 ・自分の思いや考えを簡単な英語で伝えようとする。 </td> <td> 学習到達目標 ・簡単な英語の文章や絵本を読み、内容を理解しようとする。 </td> <td> 学習到達目標 ・簡単な英語の文章や絵本を読み、内容を理解しようとする。 </td> <td> 学習到達目標 ・簡単な英語の文章や絵本を読み、内容を理解しようとする。 </td> <td> 学習到達目標 ・簡単な英語の文章や絵本を読み、内容を理解しようとする。 </td> <td> 学習到達目標 ・簡単な英語の文章や絵本を読み、内容を理解しようとする。 </td> <td> 学習到達目標 ・簡単な英語の文章や絵本を読み、内容を理解しようとする。 </td> <td> 学習到達目標 ・簡単な英語の文章や絵本を読み、内容を理解しようとする。 </td> </tr> </tbody> </table>		話すこと	読むこと	書くこと	聞くこと	話すこと	読むこと	書くこと	聞くこと	学習到達目標 ・自分の思いや考えを簡単な英語で伝えようとする。	学習到達目標 ・簡単な英語の文章や絵本を読み、内容を理解しようとする。	学習到達目標 ・簡単な英語の文章や絵本を読み、内容を理解しようとする。	学習到達目標 ・簡単な英語の文章や絵本を読み、内容を理解しようとする。	学習到達目標 ・簡単な英語の文章や絵本を読み、内容を理解しようとする。	学習到達目標 ・簡単な英語の文章や絵本を読み、内容を理解しようとする。	学習到達目標 ・簡単な英語の文章や絵本を読み、内容を理解しようとする。	学習到達目標 ・簡単な英語の文章や絵本を読み、内容を理解しようとする。
話すこと		読むこと	書くこと	聞くこと	話すこと	読むこと	書くこと	聞くこと									
学習到達目標 ・自分の思いや考えを簡単な英語で伝えようとする。		学習到達目標 ・簡単な英語の文章や絵本を読み、内容を理解しようとする。	学習到達目標 ・簡単な英語の文章や絵本を読み、内容を理解しようとする。	学習到達目標 ・簡単な英語の文章や絵本を読み、内容を理解しようとする。	学習到達目標 ・簡単な英語の文章や絵本を読み、内容を理解しようとする。	学習到達目標 ・簡単な英語の文章や絵本を読み、内容を理解しようとする。	学習到達目標 ・簡単な英語の文章や絵本を読み、内容を理解しようとする。	学習到達目標 ・簡単な英語の文章や絵本を読み、内容を理解しようとする。									
【第2学年】																	
【第3学年】																	
【第4・5学年】																	
コミュニケーションへの関心・意欲・態度 ・英語で伝えようとする意欲や関心を育て、進んで相手と関わりようとする。																	

- 相手の表情を見ながら、声の調子を変えたり、ジェスチャーや具体物を使って自分の考えを伝えようとする。
 - 自分の理解に応じて、聞き返したり理解を示しながら聞いたりする。
 - 驚きや感想の言葉を加えたり、Me,tooなどの反応を入れたりして、会話を続けようとする。
-
- 伝わりやすい声の音量とはっきりした言い方で話そうとする。
 - 聞き手の表情を見て、相手に確認しながらはなそうとする。
 - 分からない言葉があっても類推したり聞き返したりしながら聞こうとする。OK?/Nice./Goodなどの表現を用いて会話をつなげようとする
-
- うなずいたり顔の表情を示したりしながら聞こうとする。
 - 聞き手に分かるように英語で話そうとする。
 - 目を見て話したり聞いたりしようとする。

総合教育センター小学校英語教育カリキュラム参照 太田市立旭小学校版

3 研究のねらい

外国語活動・教科英語の指導において相手意識を育てる場面設定を工夫すること、及び、教科英語における指導として、E-チャレンジ、Can-Doリスト、パフォーマンステスト評価補助簿の活用等の工夫を通して、進んでコミュニケーションを図ろうとする児童が育成できることを実践を通して明らかにする。

4 研究の見通し

重点1 導入の場面等において、授業者が「コミュニケーションモデル」を示すことにより児童は様々な方法でコミュニケーションを図れることに気づき、それらを使って会話をつなげたいという興味が高まるであろう。

- 重点2 アクティビティの場面において、人間関係を築く活動を繰り返し設定することにより、自分の思いや考えを互いに伝え合おうとする力を育てることができるであろう。
- 重点3 振り返りの場面において、学びの成果を実感できる自己評価をさせたり、教科英語において評価を工夫したりすることにより、コミュニケーション活動に積極的に取り組む態度を育成できるであろう。
- 重点4 45分の授業内容と関連した内容でを試行することにより習慣的に英語を使う機会が増え、学習内容の定着を図ることができるであろう。

5 基本的な考え方

「進んでコミュニケーションを図ろうとする児童」とは、外国語を使い慣れていない児童が、限られた語彙・表現の中で会話をする相手の表情やその場面等からどのような思いを伝えようとしているのか推測し、相手を受けとめたり、身振りや手振り等を駆使して自分の思いを伝えたりしながら、会話がつながるうれしさ、心地よさを感じ、進んで人と関わろうとする児童と捉える。

「相手意識」とは自分の考えや思いを言葉やジェスチャー等を通して表現し他の児童に伝えようとする意識、また、その相手を大切に相手を受けとめようとする意識と捉える。

「英語教科化における指導の工夫」とは、自分の身の回りの出来事を表現するのに必要な基本的語彙・表現の習得の工夫、英語で自分の気持ちや身の回りの出来事を伝え合う表現の能力向上のための工夫と捉える。また、音声で十分に慣れ親しんだ語句・文を「読むこと」「書くこと」を含めたコミュニケーション能力の基礎を養うための工夫と捉える。

6 研究の内容

(1) 相手意識を育てる場面設定の工夫

コミュニケーションモデルの提示 重点1

教師が導入等の場面で“HAPPY TALK”を取り入れたコミュニケーションモデルを示す。必要に応じて繰り返し提示し、それらの方法を児童がまねることで、会話をつなげてみたいという興味を高めることができる考える。



人間関係を築く活動 重点2

“HAPPY TALK”を実践し人間関係を築く活動を設定する。「ペア活動・グループ

活動」等，自分の思いを伝えるコミュニケーション活動を工夫する。その中で児童は相手の思いにじっくり耳を傾けたり，自分の思いを伝えたりし，相手とかわる心地よさ・嬉しさを感じることができると考えられる。これらの活動を繰り返すことによって自分の思いや考えを互いに伝え合う力を育てることができると考える。

またReactionについては1年から6年まで系統立てて取り組ませ中学校へとつなげたいと考える。

2 - 活動の工夫

言語の使用場面を設定しペア活動やグループ活動を行い、聞いたり話したりする態度を育成します。



“What toppings do you like?” “I like ...”

導入では、英語だけで意味を推測できるように文脈や場面、話し手の表情やジェスチャーなどを工夫します。

“1 One, 2 two, 3 three . . .”

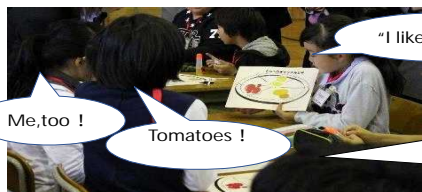
ポケットからハンカチを出しながら数を数えています。
(ハンカチが10枚以上出てきて児童は大興奮！)
見てわかるように絵カードや実物を使います。



笑顔、アイコンタクト、あいづち、話し方、ジェスチャー等、授業者は“HAPPY TALK”のモデルになります。

2 - 活動の工夫

コミュニケーション活動では、あいづちをうったり感想を言ったりすることを促し、相手意識を育て、コミュニケーションへの積極性やコミュニケーション能力の基礎を身に付けさせます。



“I like tomatoes”

Me, too !

Tomatoes !

自分のオリジナルピザをグループで紹介しています。
“I like tomatoes?” “Tomatoes!” “Me, too.”
(繰り返したり同意したりします)
“My pizza?” “Nice!”
(感想を言います)

日頃から友だちの素晴らしい発言には、Good job!とみんなで声をかけるようにしています。

活動の工夫 ③

他教科等と連動した学習内容を設定することにより、思考力・判断力・表現力や主体的に学習する態度を身に付けます。



5年 家庭科の「おやつ作り」と関連させた例

6年の総合的な学習の時間と関連させた‘animal quiz’(児童の作品)



(2) 振り返りの場面の工夫や評価の観点の明確化 重点3

学びの成果を実感できる自己評価

振り返りの場面で、相手の気持ちが分かったり、自分の思いを伝えたりしながら人とかかわる楽しさを味わったことを確かめさせる。また教科英語では群馬県総合教育センター作成の「振り返り用Can-Doリスト」を活用し、児童が学びの成果を実感できるようにする。

4 振り返り

めあてに関連させたり、楽しいと感じたときはその理由を書いたりするように促す

振り返りカード				
3.4年生外国語活動				Name{ } []
月	日	part		
友達と協力して、活動に楽しく参加しましたか。		😊	😐	😞
学習した英語の表現使って活動に取り組みましたか。		😊	😐	😞
友だちや先生と、英語を言ったり聞いたりしましたか。		😊	😐	😞
感想				

相手の気持ちがわかったり、自分の思いを伝えたりしながら**人とかかわる楽しさを味わったことを確かめさせます。**

総合教育センター-小学校英語教育カリキュラム参照 太田市立旭小学校版
教師による評価について

教科英語における評価【考え方】① 教科英語における評価【方法】②

・**中学校に自信をもって繋げ、「使って楽しい」気持ちをもたせる**

・4観点による3段階評価。**ねらいが達成できている状況であれば十分満足(A)<A規準>**

・「ねらいが達成できている状況」とは、各評価規準において求める児童の姿を具体化し、その姿が授業で半分以上見られる場合

- ・①単元で1枚「評価補助簿」を作成
- ・②各時間の評価規準、主な評価場面及び評価規準を満たした児童の具体的な姿を記入（「振り返り用Can-Doリスト」や「評価規準及び児童の姿」表を参考にする。）
- ・③各授業で主な評価場面を中心に授業全体の児童の様子からABC評価を決定し、児童の姿を見取る。
- ・④ABC評価や特筆すべきことを評価補助簿に記録
- ・⑤規準を満たさない児童については、次時や次単元等で個々に支援
- ・⑥蓄積した記録を整理し、学期末（学年末）において観点別評価

教科英語では、評価規準及び評価の観点ごとに求める児童の姿を標準化した表を作成する。その表や振り返り用 Can-Do リストを参考に各1単位時間で求める児童の姿を判断し授業前に本校作成の評価補助簿に具体的に記載しておく。授業での見取りを本校作成の評価補助簿に記録し次時及び次単元の指導に生かすとともに学期（学年）末に総括する。また群馬県総合教育センター作成のカリキュラム「E-チャレンジ」（評価モデル資料）やパフォーマンステストを、児童の見取り資料の一つとして活用する。

教科英語における評価【評価規準】

(3) 評価規準(上段)及び児童の姿(下段)

太田市立旭小学校

コミュニケーションへの関心・意欲・態度		外国語で表現する力	外国語を理解する力	言語や文化に関する体験的な理解や知識
<p>聞くこと</p> <p>「聞くこと」の活動に積極的に取り組んでいる。</p> <p>様々な工夫をして、聞き続けようとしている。</p> <p>(活動への取組)</p> <p>ア 話す人の目を見て集中して聞いている。</p> <p>イ うなずいたり顔の笑顔等表情を示すなど関心をもち聞こうとしている。</p> <p>ウ 聞いたことについて簡単な言葉や動作などで反応しようとしている。</p> <p>(コミュニケーションの継続のための工夫)</p> <p>エ 相手の話を最後まで聞こうとしている。</p> <p>オ 言われたことを繰り返すなど確認している。</p> <p>カ 聞き取れなかったとき、Hint, please. / One more, please. などと言いながら聞こうとしている。</p>	<p>話すこと</p> <p>「話すこと」の活動に積極的に取り組んでいる。</p> <p>様々な工夫をして、話し続けようとしている。</p> <p>(活動への取組)</p> <p>サ 相手に注意を払い、聞く人の目を見て話そうとしている。</p> <p>シ 笑顔で話そうとする。</p> <p>ウ 相手や場面によって適した声の大きさや速さ、明瞭さ(はっきり)などを意識して話そうとしている。</p> <p>ス 間違えることを恐れず、英語を話そうとしている。</p> <p>(コミュニケーションの継続のための工夫)</p> <p>セ ジェスチャーや実物等を使って自分の考えを伝えようとしている。</p> <p>ソ 聞き手の表情を見ながらOK?など相手に確認しながら話そうとしている。</p> <p>タ 聞き手に伝わりやすいように伝えたいことを強調している。</p> <p>チ 相手の話 Oh! / Really?などの驚きや Nice. など感想の言葉を付け加えたり、I see / Me, too / OK. などの反応を入れたりするなどあいつちをうちながら会話を続けようとしている。</p> <p>ツ 挨拶や please / Thank you. などの表現を使い、気持ちのよいやり取りをしている。</p>	<p>外国語で表現する力</p> <p>活動で用いている外国語を話しながら、外国語の音声や基本的な表現が分かり、自分の思いや考えを、簡単な表現で相手に伝えることができる。</p> <p>(英語の音声)</p> <p>ア 英語特有のリズム・イントネーション・音などの特徴をとらえて、聞いた英語をまねて繰り返している。</p> <p>イ 英語特有のリズム・イントネーション・音などの特徴をとらえて話している。</p> <p>(内容)</p> <p>エ 活動の中心となる表現を使って、自分の身のまわりのことや思いや考えを相手に伝えることができる。</p> <p>オ 尋ねられたことに対して適切に回答することができる。</p> <p>カ 聞き手を意識して、繰り返しながら話すことができる。</p> <p>キ 別の表現で言い換えながら話すことのできている。</p>	<p>外国語を理解する力</p> <p>活動で用いている外国語を聞いたり話したりしながら、外国語の音声や基本的な表現が分かり、類推しながら聞いたり、活動に取り組んだりしている。</p> <p>(英語の音声)</p> <p>ア 英語特有のリズムやイントネーション・発音などの特徴をとらえて聞き取っている。</p> <p>(内容)</p> <p>イ 活動で使うことになっている表現を聞いて相手が伝えた内容を理解している。</p> <p>ウ 聞いたことに簡単な動作で適切に反応している。</p> <p>エ 聞いたことに簡単な言葉で適切に反応している。</p> <p>オ 聞き取りにくかったとき、自分の知っている語句や場面・状況から類推して内容を理解している。</p>	<p>言語や文化に関する体験的な理解や知識</p> <p>活動で用いられる言語について基本的な知識を身に付けている。また、世界には多様なものの見方考え方があることが分かる。</p> <p>(言語)</p> <p>ア 日本語と英語の音の違いやしぐみの違いが分かる。</p> <p>イ 活動で使う語や表現がわかる。</p> <p>ウ 音声や絵カード、場面を手がかりに、慣れ親しんだ語を聴んで認識できる。</p> <p>エ 慣れ親しんだ語や文を書き写すことができる。</p> <p>(文化)</p> <p>オ 家庭や学校における日常生活や習慣など、「聞くこと」「話すこと」の活動に必要な外国の文化を知っている。</p>

教科英語における評価【評価補助簿】

単元ごとに評価を蓄積する。表の下部には学級の名簿をはりつけ気になることを記録

単元名	目標	太田市立旭小学校								
コ:コミュニケーションへの関心・意欲・態度		表:外国語で表現する力		知:言語や文化に関する知識						
評価規準	主な評価場面	第1時(/)	第2時(/)	第3時(/)	第4時(/)	第5時(/)				
		<p>・フィンガーゲーム</p> <p>・自分の誕生日をチェック!</p> <p>・フィンガーゲーム</p> <p>・月名を聞いて指で数を示している。</p> <p>・自分の誕生日チェック</p> <p>・自分の誕生日と日を言われたら、立ち上ることができる。</p>	<p>・月名絵カルタ</p> <p>・先生が言った日付を聞き、その月と日にちをつけることができる。</p> <p>・先生が言った日付を聞き、その月と日にちをつけることができる。</p> <p>・誕生日を尋ね合い、正しい順番に並ぶことができる。</p>	<p>・カレンダーから何が出てくる?</p> <p>・パースデーサークル</p> <p>・先生が言った日付を聞き、その月と日にちをつけることができる。</p> <p>・誕生日を尋ね合い、正しい順番に並ぶことができる。</p>	<p>・ペアで誕生日を聞き合う</p> <p>・E-チャレンジ</p> <p>・相手の誕生日を尋ねたり答えたりすることができる。</p> <p>・音声を聞いて、登場人物と彼らの誕生日とを線でつなぐことができる。</p>	<p>・なりきりインタビュー</p> <p>・笑顔で話している。</p> <p>・相手に伝わるように誕生日と日ははっきり話している。</p> <p>・相手の名前や誕生日を繰り返すなど確認しながら聞いている。</p>	観察、振りかえりカード	観察、振りかえりカード	観察、振りかえりカード	観察、振りかえりカード
1										
2										

(3) 短時間学習の試行による学習内容の定着とその他の取組 重点4

英語への慣れ親しみ

週3回15分の短時間学習を試行することは、習慣的に英語を使う機会を設けることになり児童の英語への親しみが増すと考えられる。

学習内容の定着化

短時間学習は、45分の授業内容と関連した内容で行うので補充的な学習にも充てることができ定着が不十分であるところを重点的に学習することができると考えられる。本校では給食・清掃終了後に15分間の帯時間(あさひタイム)を設け、週3回の短時間学習を行っている。

平成29年度		校 時 表		太田市立旭小学校	
	A校時(普通校時)	B校時(短縮校時)			
朝行事・学活等	8:25 ~ 8:50	8:25 ~ 8:40			
第1校時	8:50 ~ 9:35	8:40 ~ 9:20			
第2校時	9:40 ~ 10:25	9:25 ~ 10:05			
休み時間	10:25 ~ 10:43	10:05 ~ 10:27			
(予鈴)	10:43 ~ 10:50	10:27 ~ 10:35			
第3校時	10:50 ~ 11:35	10:35 ~ 11:15			
第4校時	11:40 ~ 12:25	11:20 ~ 12:00			
給食・歯磨き	12:25 ~ 13:10	12:00 ~ 12:45			
昼休み	13:10 ~ 13:35	12:45 ~ 13:10			
掃除	13:35 ~ 13:50	13:10 ~ 13:35			
移動	13:50 ~ 13:55	(移動も含む)			
あさひタイム	13:55 ~ 14:10				
第5校時	14:15 ~ 15:00	13:35 ~ 14:15			
第6校時	15:05 ~ 15:50	14:20 ~ 15:00			
下校4月~9月	16:30	15:30			
下校10月~3月	16:10	15:30			
* 短縮校時の時は、朝行事なし					
<朝の活動>					
* 月・木曜日 - ドリル					
* 火曜日 - 朝読書、読み聞かせ					
* 水曜日 - 1... 朝会 2... 児童集会 3... 表彰朝会 4... 学年集会					
* 金曜日 - 朝体育					
<特活>					
* 木曜日 - 6校時					
1... 委員会 2・3... クラブ 4・5... 授業					
<あさひタイム>					
* 1~4年 連絡帳記入 / 5・6年 月火水... 短時間学習、木金... 連絡帳					
* 短縮校時の時は、朝行事なし					

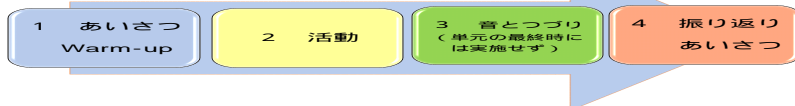
(4) その他の取組

群馬県総合教育センターが作成した年間指導計画・単元指導計画を基に授業実践を行い、それらが本校の児童の実態に合っているか、また相手意識を育てる場面設定をどのように取り入れるか等を検討する。その際、児童に行う意識調査の結果も参考にする。

授業の流れは、県のカリキュラムと同じ、「ウォームアップ」(楽しく学習する雰囲気作り)「活動」「音とつづり(文字認識)」「振り返り」である。

1 単位時間の活動計画

群馬県総合教育センター作成の英語カリキュラムを中心に実態に合わせて実施しています。



あいさつ・Warm-up
活動

Warm-up

歌を歌って楽しく学習する雰囲気づくりをしたり、チャンツで英語のリズムを楽しく学習したりします。



チャンツ「ライオンじゃなくてL i o n」をリズムに合わせてジェスチャーつきで表現しています。特に中学年の児童は大きなジェスチャーが大好きです。

活動の工夫 (p 4)を参照
音とつづり

3年生ではアルファベットの形をいろ塗りで認識させ、4年生ではアルファベットのなぞり書き、5・6年生では単語のなぞり書きや写し書きと、楽しみながら気づくような学習を取り入れるようにしている。

音とつづり

文字の認識も加えることで、発達段階に応じた知的好奇心に応えることもできます。音とアルファベットを関連させたり、Air writing (空書き) やなぞり書きを取り入れたりして、児童の負担になったりペンマンシップのような書き方の勉強になったりしないように注意しています。



アルファベットの音読みをした後で、Air writing (空書き) をしています。

振り返り・あいさつ
振り返り (p 5)を参照

小学校低中学年の外国語活動から高学年の教科英語、そして中学校英語への移行がなめらかに行われるように、小中学校の相互授業参観や情報交換を行い、小中9年間を見通して作成した旭小中学校のCan-Doリストを基に具体的に教育課程に生かす指導を模索する。

児童の英語や文化に対する興味・関心を引き出し、児童が英語に慣れ親しめるよう外国語及び文化に関する掲示物を廊下や階段の壁面に掲示するなど、校舎内の様々な場所で環境整備を行う。さらにAsahi English Rangers (6年児童希望者) が英語集会を開いたり、英語であいさつ運動をしたりして児童が英語に触れる機会を増やす。

7 - 環境の整備と工夫 【Asahi World Street】

南北の棟を結ぶ通路を他国の文化が感じられるように整備しています
子ども達は、ここですれ違うと “Hello”と挨拶をします



7 - 環境の整備と工夫 【各学年の掲示物】

階段の踊り場や教室の壁に授業とかかわりのある楽しい掲示をしています。



(5) 校内研修

英語に苦手意識のある教員でも安心して指導ができるよう全員参加のワークショップ型研修で指導力を伸ばすようにしている。研修は全員が参加し、歌やチャントの進め方、クラスルームイングリッシュの使い方などを演習形式で学ぶ。また、教員が主体的に取り組めるようにしている。加えて普段から授業をビデオで撮影して、校内研修の際に好事例を共有することも行っている。

校内研修

学級担任の英語力・英語運用能力の向上のための研修を積み重ねることで専門外であっても、積極的に全教師が英語を話しています。その結果、日本語で理解を促さなくても児童が動くことができるようになってきています。



教材を手作りしています。



グループでデモンストレーションをしています。

7 成果と課題

文部科学省初等中等教育局教科調査官直山木綿子先生は講義の中で、「『英語教育を通じて豊かな人権文化を育み、民主的・平和的な多言語・多文化の実現を目指す』ことが必要である。小学校英語は、『かかわり合い、伝え合い、つながりを大切にする』子ども達の心の扉を開けるカギのようなものであると考える。言語を通して『自己理解、他者理解、相互の関係性の構築（人間関係作り）』を行うものである。だから小学校の外国語活動において、担任は欠くことができない重要な存在である。』また、『小学校では担任を中心とした小学校文化を大切に、中学校では小学校文化に根付いたものをどう効果的に行うかが大切である。小学校の担任の存在が非常に大きい。』と話されていた。

本校の研修テーマ「進んでコミュニケーションを図る児童の育成～相手意識を育てる場面設定の工夫と英語教科化における指導の工夫を通して～」にも深く関わる内容であると考え地道に実践を進めてきた。

今後、小学校英語は専門知識だけで進めるのではなく、児童を理解している担任の先生が活動に加わることが大切であると私は考える。TT にはいろいろな方法があり、どの方法も利点と課題がある。今後どのような形態で進んでいくのかわからないが、どのような形態を取るにしてもお互いにコーチング、つまりお互いが教師になって、お互いに指導者として力を付けていくことで、より効果的な外国語活動へと進化させていくことができると感じている。

同じ学区の中学校の教員からはよく、『本校の卒業生はよく耳が育っている』と言われる。教師が話す英語はほぼ理解しており、自分の考えを表現することも積極的ようだ。また今年3月の本校の卒業生の英語実力テストの結果はどの分野においても市内トップであったと嬉しい報告が届いた。

この4年間で本校の教員の意識も大きく変化した。着任したての教員には英語専科がフォローに入るが、従来からいる教員は抵抗なく英語を話し、ALT をうまく活用しながら積極的に授業をリードできるようになった。

今後は、小中連携や ICT 環境の整備がさらに進み、恵まれた環境の中で工夫した指導につながればと考えている。同じ中学校区で情報共有を進め、地域全体の英語力向上を目指していきたい。

各地域の外国語活動にはだいぶ温度差があり、私自身、所属する県や市、所属校で、研修をどのように推進していけば効果的なのかと責任の重大さをずっと感じ続けてきた。しかし、教師が英語に長けているということよりも進んで伝え合おうとする姿勢を児童に示すことが大事であることに気付かされた。また、児童にとっては日々の積み重ねが力を蓄えていくのに絶大な効果を生むことを感じた。残された日々でさらに研修が深まるよう努めていきたい。